

# ① 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム桂寿あに
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	秋田県北秋田市
記入者名 (管理者)	五代儀 ひとみ
記入日	平成21年7月28日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を築き職員の目のつくところに張っているが、理念通りにいくには努力が必要である。	○	・理念に基づき、地域に深くかかわっていけるよう努力が必要で、今以上地域内外での交流を深めていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	取り組んでいる。	○	・職員一同、今後も努力をして行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	取り組んでいる。		・出掛ける事を多くし声掛けを多くし今以上に地域と交流を深めていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	常に努めている。	○	・近隣の方たちにはまず顔を覚えていただけるよう常に声掛けをして、最近では近所の方のほうから声をかけていただいている。立ち寄って頂くためにはさらなる努力が必要である。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	常に努めている。	○	・行事の情報を聞き出し参加をしているが、回数が極めて少なく努力が必要である。近所の集まり場所には積極的に参加しているが今後は自治会、老人会、運営推進委員の方々からも情報を聞き出し交流をより一層深めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んではいるがGH独自の取り組みとはいえない。	○	積極的ではないが、一人暮らしの高齢者を把握し声えかけ、目を向けるよう意識づけている。又勉強会（茶話会）のお誘いなどしながらお互いの楽しみにつなげていけるようにしている。又面会時など家族の方から相談を受けている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善できるよう取り組んでいる。	○	・前回指摘、改善求められた箇所は全部とはいえないが理解し改善に努めているが更なる努力が必要である。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かされている。		・委員には、人生経験の豊富な方々が多く、高齢者の立場に立った意見を聞くことができ、利用者の心のうちを知る上で非常に参考になります。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組んでいるとはいえない。	○	民生委員、支所長との交流は少なからずあるがサービス向上につながっているかは疑問であり、今後、交流を深めサービス向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	行っている。	○	・勉強会を実施し活用できるよう支援した例が一件あった。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	努めている。		・虐待防止委員会を設けマニュアルを配布し把握し防止に努めている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている。	入所時は、できるだけ家族・本人の意見を聞き、その上で十分な説明をし、納得をしていただき、その後疑問が生じたときはいつでも対応できるよう努めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	完全とはいえないがある程度は反映されている。	○  ・改善できないことがあるため完全に受け止められてはいないがある程度は反映されている。運営推進委員会での話し合いでアドバイスを頂き不便の無いよう努力している。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回は連絡している。（他は適宜に連絡報告している）	・毎月月初めの請求書送付時に小遣いの出納帳の報告、利用者の状態報告等を行っている。随時個別に書く時は手紙による報告、電話連絡等を行っている。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	大いに反映している。	運営推進委員会に家族の方がいるため、意見等を真摯に受け止め改善、実行している。苦情窓口の設置等、家族がいつでも意見を述べられるよう雰囲気作りに努めている。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	やや反映している。	職員会議時、職員の意見を聞き出し反映できるよう努力している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	努めている。	・職員の急用、急病発生時等は臨機応変に職員同士で調整し、利用者の不利益にはならないよう対応している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	配慮した異動を実施している。		・異動の場合は、前任者との引き継ぎを十分行い支障のないよう配慮している。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			・研修に行った職員の報告等、勉強会をおこなったり話し合ったり実践に生かしている。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりなど情報は保たれているが十分な交流は図れていない。	○	・出会いの機会を設け交流を深めサービス向上を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	取り組んでいる。		・職員親睦会、職員レクリエーション、研修旅行などの取り組みが盛んにある。また職員会議等で、自由発言をしてもらいお互いのストレス解消法を話しあったり、随時話しが出来る環境が出来ている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努めている。		・職員全員が施設内研修、及び外部研修等、受講可能となるように計画を立てている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努力はしている。	○印  ・機会があるごと、または適宜に話を聞き信頼関係はできている。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	努力している。	○印  ・十分に話を伺いできるだけ意向に沿いたい旨は伝わっていると思う。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。	○印  ・必要性の有無を聞き出すが殆ど希望は聞かれない。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	工夫している。	○印  ・入所時に家族より普段の過ごし方、どのような行動と安心して過ごせる環境づくりの情報聞き出し安心して過ごせるよう工夫している。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	築いている。	○印  ・一緒に過ごし話をできるだけすることで、不安に思っていることの早期解決できるよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	十分ではないが築いている。		・支払い日の面会時に本人の状況説明をそのつど報告し声かけをしていただき見守り支援を行っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	築いている。		・築いているが、双方に深入りするのは困難な場合がありできるだけ努力はしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。		・自由に連絡が取れるよう、また会いたい旨を話し面会に来ていただいている。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	見守っている。		・利用者さん同士が話し合ったりできるよう間に入り見守っているが雰囲気が悪くなってくる様な時は話題を変えたり関係がこじれない様、努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	大切にしている。		・手紙、電話、会ったときの会話などで繋がりはできている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿っている。	・常に見守りし本人の思いを出来るだけ受け止めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。	・回想法など取り入れ昔従事した仕事、子育て、兄妹、孫などの話題のある機会を持ち個々の生活歴を把握し表情のある生活を支援している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	努めている。	・日常生活パターンを把握し興味を引き出し楽しみを持って生活できるよう支援している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	出来ている。	・作成前に家族の意見、希望、意向を伺い、さらにスタッフ等でケアに関するアイデアの話し合いをして計画に取り入れている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	新たな課題が生じた時は報告をしている。	○ ・問題が生じた場合（新しいニーズ）は家族に連絡し、スタッフで打合せ、モニタリングをし計画の見直しを実施。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行っている。		・ケース記録への記入、定期的、もしくは随時のケースカンファレンスを行いその都度とはいかないが介護計画に取り入れている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	十分とはいえないが一部おこなっている。	○	・隣接特養での行事参加、運動機材の活用などを行っているが十分とは言えないため今後は更に取り入れて行きたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	支援している。	○	・ボランティアの方が来荘するが、すべての機関とは行かないため更に力を注いでいきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	なされていない。	○	・なされていないため今後は情報交換を密にしサービスを使えるよう支援したい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	殆ど出来ていない。	○	・回数は少ないため情報交換を密にし今後はさらに協働を深めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している。	・協力病院が近隣にあるため、早期の受診と治療が出来ている。また他科受診希望時は受診介助を行っている。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援している。	・定期的な受診、新患の受診等相談したり連携を図っている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	行えている。	・常にDrとの情報交換、容態報告、指示を仰ぎ健康管理を行っている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	行っている。	・面会でいくらかでも安心した入院生活を送れるよう支援している。本人の言葉を尊厳し意思を聞きだしながら医療従事者を介して面談の時間を設けて頂いたりDrに話してもらったりの連携は図れている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	行っている。	・家族への十分な説明に加え、主治医からの面談により決定、納得の上見取りプラン作成し同意を得て週末のケアを行っている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	行っている。	・スタッフによるターミナルケアについての話し合い、緊急時、急変時のスタッフの連携、連絡網、主治医との密な容態報告等こまめに行っている。また家族の方と一緒に過ごせるスペースも用意している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	努めている。		・ほとんど替えることはないが、やもう得ない時は本人の意思を十分に聞き、家族への相談を行っている。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	行っていない。		・記録には本人の言動そのまま書くようにしているが、本人が納得するような言動を共有できるよう尊厳に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	支援している。		・毎日同じ言動を繰り返しても、その都度対応し本人が安心した顔つきを見極め十分話を聞き入れている。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している。		・日中の行動パターンを把握しどこにいるとゆっくりすごしているか、居心地のいい場所、また同じ時間によって繰り返す行動を熟知し自由に行動できるよう見守りながら支援している。本人からの希望は殆ど聞かれない。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行っている。		・毎朝の整髪、月1回の理容（カット、顔そり）を行っている。希望時は化粧を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。		・一週間のメニュー作成時、食べたい食品名を聞き出し出来るだけ取り入れ一人ひとりが喜んでもらえるよう工夫をしている。 ・準備、後片付け、配膳、下膳は一緒に行っている。
55	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	行っている。		・個々に嗜好品を聞き出し出来るだけ取り入れて楽しめるよう支援している。ただ家族よりお酒は飲ませないでほしいと言われている例がある。
56	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	支援している。		・本人からの訴え時、トイレを使用し排泄を行っている。リハパン、パットはずしに努めたいが本人からの不安であることがあるため数名が使用している。汚染時は適宜に部分浴、入浴を試みている。
57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	支援している。		・入浴日は指定されているが、希望時、汚染時など適宜に行っている。又、入浴剤を変えたりし、一人で入れる方などゆっくりリラックスして楽しめるよう工夫している。
58	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	支援している。		・個々の睡眠パターンを把握し、日中の心地よい刺激をし適度に体を動かしたり、夜間の安眠を計れるよう取り組んでいる。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	支援している。		・そのときの、体調、気分を把握し声掛けによる手伝い軽作業（草取り、花、野菜等の水かけ、茶碗拭き、山菜の皮剥き、フローリングのモップ掛け）などを行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	支援している。		・小銭の管理は数名の方が行えるが殆どの方は金銭感 がないため家族より小銭以外は自主管理しないでほしい との希望もあり、また被害妄想のため盗まれたとのトラ ブル発生を防止する上で、外出行事（買い物時）は職員 が付き添っている。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	支援している。		・日光浴もかねながら天気の良いときは極力 外出（施設周囲）、買い物等の外出にに努め ている。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	出来るだけ行っている。	○	・本人からの希望を聞き取り出来るだけ希望 を取り入れて行きたいが、スタッフの勤務体 制、天候の状況でなかなか希望するところ には行けない。 ・年間の外出行事 を計画し普段行けないところをリストアッ プし実行している。
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支 援をしている	支援している。		・希望時等、そのつど適宜に対応を行って いる。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの 人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居 心地よく過ごせるよう工夫している	工夫している。		・面会時は本人の居室でよいか、ホールで よいかを確認し双方の希望する場所を提 供している。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法 指定基準における禁止の対象となる具 体的な行為」を正しく理解しており、身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		・委員会によるマニュアル作成。 ・勉強会を行っている。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	努めている。		・行動パターンを把握し常に見守りをし一緒に行動を共に、自由に出入りできるよう努めている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行われている。		・プライバシーの保護、行動パターンを把握し昼夜のこまめな見守り、見届を行っている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	行っている。		・行動が不穏な方、見当識が著しい方など個々の状態を把握し厳重な注意を払い保管、管理を行っている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	取り組んでいる。		・常に個々の変化を把握、速やかなカンファレンスを行い未然に防げるよう、またヒヤリハットの報告で早期対応をし職員の意識統一をしている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	行っている		・年2回施設内訓練で地域消防職員の指導の下、実施している。職員1名応急手当普及員の認定を受けている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	行っている。		・2ヶ月に一度避難訓練を行っている。夜間はスタッフ不足と利用者のパニックを考慮すると夜間設定は出来ず日中に行っている。(火事、地震等の災害を設定) 近隣住民の支援体制はあるが実際参加しての訓練は行っていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	話し合いをしている。		・入所時（契約時）に重要説明書等を十分説明し出来るだけ本人本位にすごせるよう支援するが突発的なことに関しては避けられない時もある為十分注意を払う事を伝えている。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	行っている。		・本人からの訴えを第一とするが、見極めが必要な場合があるためいつもと感じが違う点を把握しバイタル等を観察し受診必要時は速やかに対応を行っている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		・内服明細書を把握し副作用の有無を熟知し異常の早期発見に努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	行っている。		・毎日の排便の有無確認、個々の排便周期を把握し宿便防止し水分を多めに飲用、また歩行可能な方は歩いて下半身の運動をしてもらう。コントロールできない方は定期的に緩下剤を与薬し快便を図っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	行っている。		・毎食前後の声掛け、緑茶でのうがいの徹底、就寝時の義歯の消毒（ポリデント）を行っている。個々に声掛け見守り、見届を行っている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	行っている。		・食事チェック表に摂取量を記入している。また水分に関しては3食時および10時、15時他希望時等、適宜に飲用していただき少なめなときはいずれも飲みやすい食べやすい代替食品等の提供を行っている。管理栄養士相談もある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	実行している。		・施設内独自の感染委員会があり研修、および勉強会を行いマニュアルに沿った予防し早期発見に努めている。またインフルエンザに関しては予防接種を積極的に勧めている。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	努めている。		・食中毒予防マニュアルを作成し調理時の手指の消毒、食器等の消毒の徹底、新鮮な食材の購入と保存、また残ったものは処分、自主管理、外部からの持込の協力と理解をしてもらっている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	工夫している。		・周囲の雑草を刈ったり、プランターに花を植えたり畑に野菜を植えたりし民家と同じ雰囲気づくりをしている。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。		・居室、トイレ、ホール等には季節を感じる花を飾ったり廊下には自ら作成したカレンダーを貼ったり楽しみのある雰囲気づくりをしている。又、台所は対面式になっているため、立ち話などしながらお互いの空間作りに努めている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している。		・食席（ホール）でのくつろぎ時間が多く職員が常に見守れる体制にあるが、ひとり一人の居場所のスペースまではとはいかないが、居室で過ごしたい時は椅子などを設置しゆっくり会話を楽しんでいる。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	工夫している。		・テレビ、ソファ等は設置しているが、家族 からは積極的に荷物の持ち込みはない。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	行っている。		・四季に合わせ換気、温度調整を行って いる。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	工夫している。		・廊下の手すり、トイレ使用時の手すり等 などの立位時の活用、移動時の上肢の機能 訓練に活用出来ている。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように 工夫している	工夫をしている。		・全員の方とは行かないが、ある程度 の疎通が図れる方には積極的に楽しみ ながら残存能力を生かしている。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽 しんだり、活動できるように活かしている	活かしている。		・日光浴を楽しんだり、便秘時の運動 をうながしたり活用している。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  歩行のできる方に限られるが、天気にも左右される。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない  ほとんどの家族は満足と答えるが、本心はわからない。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・高齢者の好む食材を提供し、管理栄養士と連携をとり安全でバランスのとれた、楽しみのある調理を行っている。
- ・家族が望む時には、十分な説明と主治医との連携を図りターミナルケアを行っている。
- ・身体レベル、精神レベルが現状維持できるよう側面からの支援に努力をしている。